

下田のイチイ

この一本のイチイ (*Taxus cuspidata*) の木は、かつて下田という辺境の集落のシンボルだった。集落の中心には覚順寺があり、その境内には樹齢 200 年のこの木があった。1887 年に後継者問題で廃寺となったが、下田は合掌造りの家に住んでいた 7 世帯が離村する 1950 年代までに存在した。今では、高さ 14.6 メートルの白川村最大のイチイの木が往時を偲ばせているだけで、下田の平地はほとんどが養豚場になっている。

イチイは成長が非常に遅いが、木が比較的柔らかく彫刻がしやすいため、現在の岐阜県にあたる地域では伝統的に装飾用木彫の材料として使われてきた。